

琴聲山音楽寺

梅雨時には古寺に彩りを添えてくれるあじさいがたくさん咲き誇る音楽寺。「自分たちの手で保存し、受け継いでいく」
ここにある貴重な文化財は地元の方たちを中心に守られていた。



【取材協力】
村久野総合観光委員会
長谷川 一光さん

発掘埋没品からわかった 音楽寺の古き歴史

琴聲山音楽寺は江南市内最古の西山浄土宗のお寺で、地元では円空仏があるお寺として知られている。音楽寺の歴史は今から830年あまり前にさかのぼる。寺の前身は大乗院といい、672年に起きた壬申の乱の功労者・村国男依にかかわりがあるといわれ、1184年(元暦元年)、源詠法師が開基。七堂伽藍で数多くの塔頭を持つ大寺院だったといことが、近年発掘された出土品から推測されるという。境内や近くの畑の地下1メートルほどの深さから、奈良時代のものと思われる布目瓦や、平安時代の細弁蓮華文軒丸瓦、須恵器などが出土したのだ。さらに平成4年に行わ



1



2



3



4

1.木造薬師如来坐像(江南市指定文化財) 明治8年(1499年)制作と首飾内側に墨書がある 2.梵神像(江南市指定文化財) 捨て置かれた樹根で作られたと思われ、髪髯の部分などは自然風化がそのまゝいれたため、何ともいえない力強さを感じる 3.大護法善神像(江南市指定文化財) 背面に、「円空沙門造・大護法善神像 幾度もタテモ タフルミエノテラ 56オク スエノマダモ」の墨書がある 4.十二神将(江南市指定文化財) 右より(子)真降羅大将、(丑)招社羅大将、(寅)真流羅大将、(卯)摩虎羅大将、(辰)婆夷羅大将、(巳)因流羅大将、(午)潘羅羅大将、(未)鳩仰羅大将、(申)安流羅大将、(酉)送金羅大将、(戌)宮羅羅大将



上)薬師堂 この縁の下に円空仏が保管されていた。風通しが良い環境だったため、劣化を防げたと考えられている 下左)村国の郷歴史資料館 あじさい祭り期間中にぜひ拝観を 下右)高さ約3m、境内で枯れかけていたクスノキを、護法善神像としてよみがえらせた(平成15年完成)

16体の仏像などが展示されている。円空とは美濃国(現在の岐阜県)で生まれた修行僧。幼少のときに長良川の洪水で亡くなった母の供養のため、出家して全国を行脚する放浪の旅に出て、「円空仏」と呼ばれる独特の作風を持った木彫りの仏像を各地に残していることで知られる。円空が生誕に彫った仏像は12万體と推測され、現在までに約5300体以上の仏像が発見されている。

護法善神像を寄進すると、すぐに治まったという言い伝えもある。歴史資料館の奥にずらりと並び、ひときわ目を引く仏像たちは十二神将だ。十二神将とは薬師如来および薬師経を信仰する者を守る十二の夜叉神のことで、十二の大願に応じてそれぞれが昼夜の十二時、十二月、または十二の方向を守るといふ。そのため十二支が配当され、仏像の頭には十二支が小さく彫られている。そして、一般的には背中に墨で神将名が書かれていることが多いのだが、音楽寺の仏像は背中に直接神将名が彫られているという貴重なものだ。しかし、並んでいるのは11体。12体のうちの1体「戊戌折羅神将」がここにはないのだ。

このように音楽寺の歴史が保存され、後世へ伝える役目を担っているのが本堂の脇に建っている「村国の郷歴史資料館」だ。ここには発掘調査で見つかった出土品をはじめ、熱田社の宝剣や音楽寺の御本尊である木造薬師如来坐像、円空より寄進されたとい

あじさい祭りとともに
拝観できる
村国の郷歴史資料館

これらの貴重な資料や仏像が保管されている村国の郷歴史資料館だが、残念ながらも開館しているわけではない。しかし、境内に植えられているあじさいのあじさいが見頃を迎える季節に開催される「あじさい祭り」期間中は拝観できるので。



■琴聲山音楽寺
江南市村久野町寺町73

■村国の郷歴史資料館
江南市村久野町寺町73 音楽寺境内 TEL.0587-57-7078(担当 長谷川)
拝観料/300円 拝観日/あじさい祭り期間中 時間/9:00~16:30
※あじさい祭り期間中以外は原則予約により拝観可

第17回
あじさい祭り

■期間/6月6日(土)~28日(日)
■内容/期間中の土日は大正琴や太鼓などの演奏会やカラオケ大会などのステージイベントや写真・書道大会が行われる。会場店舗の購入者には最終日に多くの豪華賞品が当たる大抽選会も予定されている

を管理運営している村久野総合観光委員会の長谷川さんによると、戊像は安城市にある長福寺にあるらしい。なぜ1体だけ、しかも戊像だけが長福寺にあるのか、いろいろな言い伝えや推測がある。そうだが、長福寺にある戊像は音楽寺の11体の円空仏と同じ時期に彫ったものであることは間違いないようだ。

音楽寺は別名「あじさい寺」とも言われ、6月初旬から7月上旬にかけて33種類、約1200株のあじさいの花が咲き誇るという。これらは地元の人たちを中心に植えられたあじさいで、毎月草むしりや剪定などのお手入れをしているのだ。

現在、音楽寺には住職がおらず、普段はひっそりと静まり返ったお寺である。しとしと雨が降り続く梅雨時期は、いっそう静けさが増してしまいがちだが、青紫やピンク色に染められたあじさいの花が参拝者を出迎えてくれる。

この時期恒例となっているあじさい祭りも今年で17回目を迎える。ぜひ足を運んでみてはいかがだろうか。